

プロフィットケア

ウイングフィット WF-RX

取扱説明書 保証書付き



2026年1月 第1版

1. 目次

2.はじめにご確認ください	3
3.おもな機能と特長	4
4.安全にお使いいただくために	5
5.各部の名称	8
6.仕様	9
7.機能説明	9
8.車いすのオプション	10
9.使用方法	11
9-1.駐車ブレーキのかけ方、解除の方法	11
9-2.介助ブレーキの使用法	11
9-3.介助ブレーキの操作時の注意	11
9-4.手押しハンドルの起こし方・たたみ方	12
9-5.車いすを開く	13
9-6.座面高さの調整(前輪キャスト、後車輪の取付け位置変更)	14
9-7.乗り方・降り方	16
9-8.動かし方	17
9-9.介助の仕方	18
9-10.フットサポートの使い方	19
9-11.ウイングアップ式アームサポートの取扱い方法	19
9-12.スイングアウト式フット・レッグサポートの取扱い方法	20
9-13.外出時の注意	21
9-14.その他の注意	22
9-15.ティッピングレバーの使い方	22
9-16.車いすのたたみ方	22
10.各部の調整の仕方	23
10-1.フットサポートの高さの調整	23
10-2.バックシート調整ベルトの調整	23
11.こんなときは(困ったときは)	24
12.車いすのお手入れの仕方	24
13.ノーパンクタイヤのメンテナンス方法	25
14.保守・点検	25
14-1.車いす点検シート	25
14-2.消耗品・交換部品の確認	26
15.廃棄方法について	26
16.アフターサービス	26
17.保証書	27

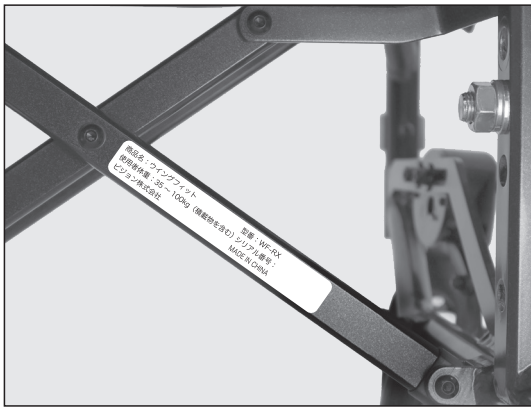
2. はじめにご確認ください

このたびは、プロフィットケア ウィングフィット WF-RXをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。ご使用の前に、この説明書をよくお読みいただき、内容をよく理解された上で正しくお使いいただきますようお願いいたします。

なお、取扱説明書は、必ず大切に保管してください。



この車いすは車載を前提に設計されていないため、車の座席としての強度を考慮しておりません。座席として使用した場合には車載中の負荷により、車いすが破損する場合があります。車に乗車される際は、車の座席に移乗をお願いいたします。



購入された製品の機種名をご確認ください。
機種名は、左記位置に表示しております。

- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店またはピジョンタヒラ(株)、ピジョン(株)お客様相談窓口までお問い合わせください。

付属品 以下①～③(オプション付きの場合は④、⑤、⑥)があることをご確認ください。

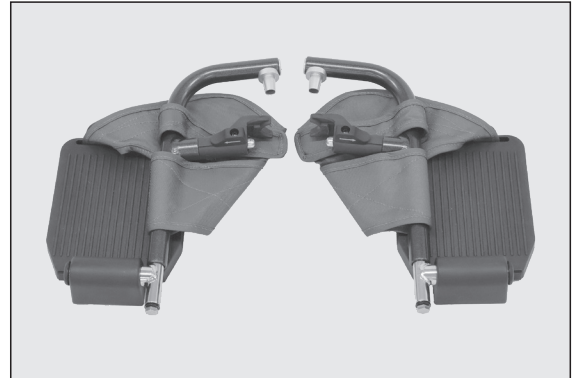
①製品本体



②取扱説明書(本書)



③スイングアウト式 フット・レッグサポート



④座面クッション(オプション)



⑤背面クッション(オプション)



⑥16インチ介助車輪(オプション)



3. おもな機能と特長

■座面高さの調整ができます。

- 使用者の体格に合わせて調整できます。



指示

- 車輪の高さを変える際は、前輪キャスターと後車輪の高さ設定が同じになるように調整してください。
- 後車輪を取り付ける際は、緩まないよう19mmスパナ等でしっかりとナットを固定してください。

■車いすへの移乗がスムーズにできます。

- ウイングアップ式アームサポート

アームサポートを跳ね上げることにより、スムーズに移乗ができます。

- スイングアウト式フット・レッグサポート

フット・レッグサポートを開く、または取り外すことにより、ベッド・椅子などに近づくことができます。





■バックシートの張り調整ができます。


- 使用者の姿勢に合わせて調整できます。

4. 安全にお使いいただくために

ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用者および他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を危害や損害の大きさと危険の程度によって「警告」「注意」「禁止」「指示」に区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、ご使用前によくお読みになり、必ず守ってください。



 警告	 注意	 禁止	製品使用上、禁止とする行為を示しています。
誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。	誤った取り扱いをすると、人が傷を負ったり物的損害が想定される内容を示しています。	 指示	製品使用上、必ず行っていただきたい行為を示しています。

 注意	使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。ロックされていないと、使用者が後方に転倒するおそれがあります。
---	---

次の点は安全にお使いいただくために必ずお守りください。



操作・走行上の注意

警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●本製品は1人用に設計されています。2人以上で使用しないでください。 ※最大使用者体重（積載物含む）は100kgです。 ●スピードを出さないでください。スピードが出ている時の急カーブ・急ブレーキは、転倒のおそれがあり大変危険です。 ●走行中に駐車ブレーキを使用しないでください。 ●バックしながら、急停止しないでください。転倒のおそれがあります。 ●座面以外の部分に腰をかけないでください。 ●走行中は、身体を乗り出さないでください。走行の安定を損ない危険です。転倒のおそれがあります。 ●アームサポートやフットサポートなどを持って車いすを持ち上げないでください。 ●車輪に身体の一部や物を差し込まないでください。手や指を挟み、ケガをするおそれがあります。 ●階段、エスカレータ、段差のあるところや、砂場、砂浜、河原、ぬかるみなどの悪路では走行しないでください。 ●凹凸のある場所では、前かがみ姿勢で使用しないでください。 バランスを崩し転倒するおそれがあります。 ●台車の代わりにするなど、使用者の移動目的以外での使用はしないでください。
 指示	<ul style="list-style-type: none"> ●ご使用中に、異常を感じたらすぐにご使用を中止してください。 ●急な下り坂で介助する時は、後ろ向きにゆっくり下りてください。 ●坂道の走行には介助者を伴い走行してください。 ●走行中は、足を必ずフットサポートの上に乗せて走行してください。 ●階段、踏切を横断する際の溝や踏み切りの線路による落輪、歩道の段差での転落には十分注意してください。 ●認知症の方の場合は、部品などを飲み込むことが考えられますので十分注意してください。 ●移動中に使用者のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。


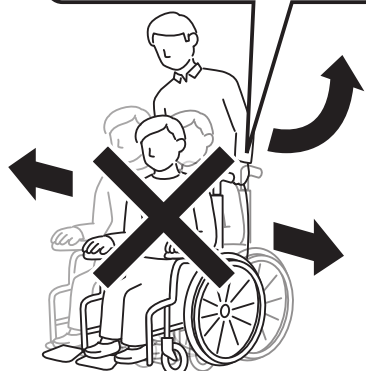
操作・走行上の注意

⚠ 注意

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●車いすを火気に近づけないでください。加熱によるヤケド・火災の原因になります。 ●タイヤを握って後車輪を操作しないでください。駐車ブレーキに指を挟み危険です。 ●介助者は、車いすに乗って介助しないでください。 ●車いすが不安定になるため、背面ポケット、手押しハンドルなどに重いものを引っかけないでください。 ●アームサポートを跳ね上げた状態で寄り掛かったり、外側から押ししたりしないでください。 ●車いすを開く際、手や指を挟むおそれがあるため、座面シート端のパイプを握らないでください。 ●アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートを更に跳ね上げるように力をかけないでください。ケガや破損するおそれがあります。 ●スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。摩擦で手にケガをするおそれがあります。介助ブレーキを使って減速してください。 ●使用者の体格や座位姿勢によってサイドガードが外側に広がってしまう場合は使用しないでください。ケガや破損するおそれがあります。 ●駐車ブレーキレバーは必ず手で操作してください。また、体重をかけたり、作動方向（前後方向）以外に力を加えないでください。ケガや破損するおそれがあります。
 指示	<ul style="list-style-type: none"> ●回転している後車輪に指を挟まないように注意してください。 ●夜間や雨天時には、通行者や自動車などから見えにくくなりますので十分注意してください。 ●介助者は、使用者の身体の一部や衣服がタイヤ、スポーク、前輪キャスターおよび地面・建物、通行者に触れたり挟まったりしないよう、車いすに安全に座れているかを確認してから操作してください。 ●フット・レッグサポートを取り付けた際は、確実に固定されていることを確認してください。 ●フット・レッグサポートを開いたり、取り外しを行う際に、手や指を挟まないように注意してください。 ●フットサポートが固定されているのを確認してご使用ください。



停止時の注意

⚠ 警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●手押しハンドルに寄りかかって過度な力を加えないでください。ケガや破損につながるおそれがあります。 ●アームサポートを跳ね上げた状態で寄り掛かったり、外側から押ししたりしないでください。 ●横移動などのために、無理な力で手押しハンドルを引き上げないでください。フレームが破損するおそれがあります。 ●アームサポートに座らないでください。バランスを崩して転倒・破損するおそれがあります。 	<div data-bbox="1098 1169 1433 1236" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">無理な力で手押しハンドルを引き上げない</div> 
--	---	---

移乗時の注意

⚠ 警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none"> ●移乗する際に、駐車ブレーキレバーに体重をかけないでください。ケガや破損するおそれがあります。 ●フットサポートの上に乗って、車いすに乗り込んだり、立ち上がらないでください。ケガや破損するおそれがあります。 ●車いすのシートの上で立ち上がらないでください。ケガや破損するおそれがあります。
 指示	<ul style="list-style-type: none"> ●移乗する際は、必ず両後車輪に駐車ブレーキをかけてください。 ●移乗する際は、フットサポートを跳ね上げてから行ってください。また、跳ね上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。 ●移乗や駐車は平坦な場所で行ってください。

段差乗り越え時の注意

⚠ 注意



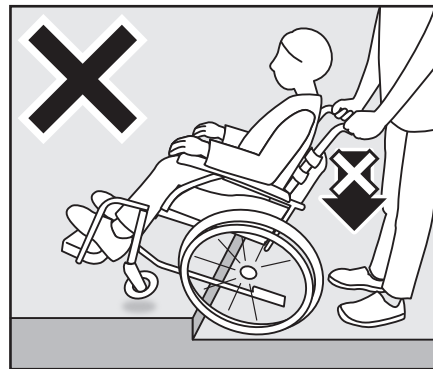
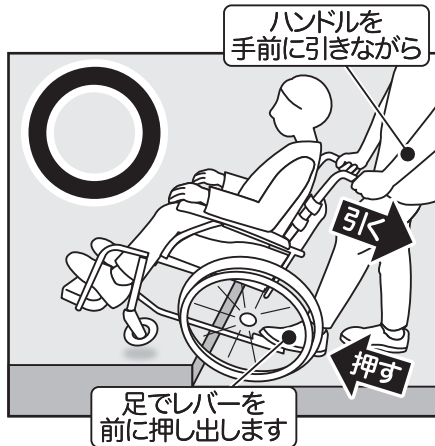
禁止

- 無理な力による段差乗り越えはフレームの破損につながるおそれがあります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えないでください。使用者が転落して、事故の原因になります。故障や破損の原因となります。
- 使用者を乗せたまま、手押しハンドルを無理に持ち上げないでください。フレームの破損やケガのおそれがあります。



指示

- 段差を乗り越える際は、介助者の方は足元のティッピングレバーを踏み込み、前方に押し出ししながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、前輪キャスターを段の上へ上げてください。



保守・点検の注意

⚠ 警告



禁止

- 取扱説明書に記載している部分以外の改造・分解はしないでください。
- 故障、異常があるときは、事故や転倒のおそれがあるため、使用しないでください。
- 本体の切断・穴あけ等の改造、組み換えを伴う加工は行わないでください。



指示

- 使用する前に後車輪、前輪キャスター、駐車ブレーキなどのねじを点検し、緩んでいるときは増し締めをしてください。
- 車いすに水がかかった場合は、ただちに拭き取ってください。
- 各部を調整するときは、平坦な場所で行ってください。
- 車いすを自動車に載せたり、降ろす際は、大きな衝撃を与えないよう、ゆっくり降ろしてください。車いすの破損や故障の原因になります。

シート・オプションクッション使用時の注意

⚠ 警告



禁止

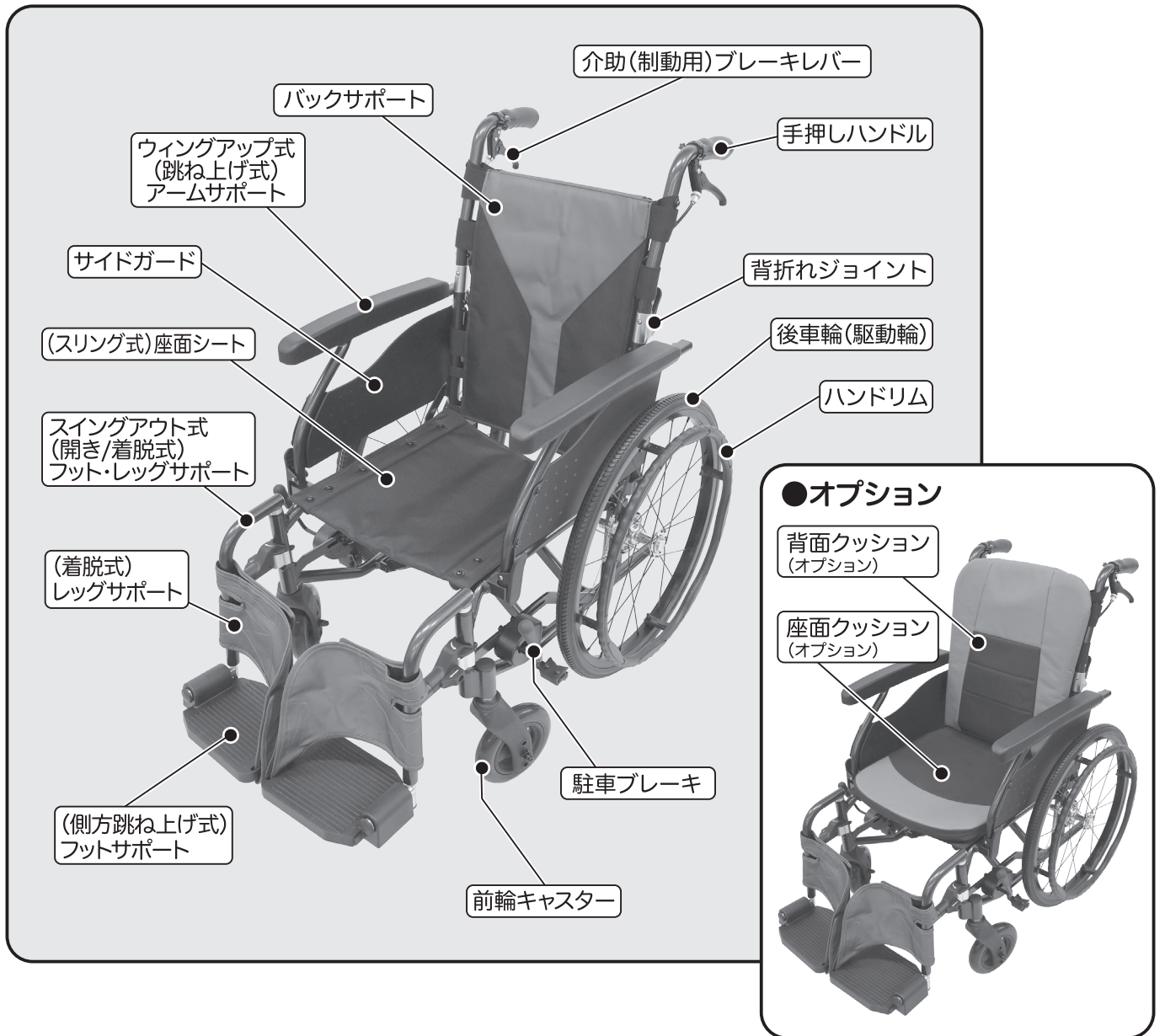
- 座面クッションへ一点に集中するような荷重をかけないでください。製品の破損につながるおそれがあります。
- 高温多湿や長時間直射日光が当たる場所でのご使用は避けてください。製品の劣化につながるおそれがあります。
- ストーブなどの火気に近づけたり、高温のものに近づけないでください。火災の原因になります。
- 圧がかかるような状態での保管はおやめください。ヘタリや破損の原因になります。
- クッションは洗濯しないでください。
- 乾燥機は使用しないでください。



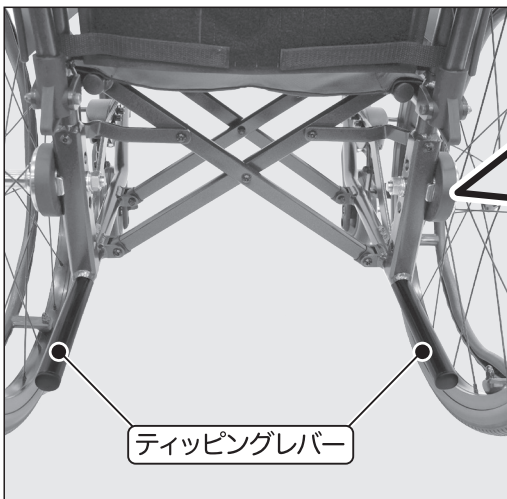
指示

- 車いす本体への取付け方法を確認の上、ご使用ください。
- ご使用中に異常を感じたらすぐに使用を中止してください。
- 製品の部分的な汚れは中性洗剤で拭き取ってください。消毒用アルコール、有機溶剤、塩素系消毒剤などで拭くと、製品の機能を損なう可能性があります。

5. 各部の名称



●車いす後ろ側



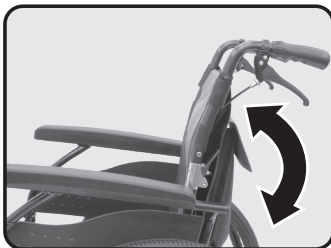
6. 仕様

項目		ウイングフィット WF-RX
材質	フレーム	アルミ
	シート	ウレタンフォーム、ポリエステル
寸法	全長	980mm
	全幅	580mm
	全高	880mm
	座面幅	400mm
	座面奥行	400mm
	前座高	375・400・425(クッション込み+30)mm
	後座高	350・375・400(クッション込み+30)mm
	アームサポート高	245(クッション込み215)mm
後車輪×前輪キャスター		20×6インチ
最大許容体重		100kg
重量		15.7(クッション込み16.4)kg
項目		オプションクッション(座面クッション、背面クッション)
材質	クッション(表地)	ポリエステル
	クッション(中材)	ポリウレタン
	座面クッション(裏)	PVC(滑り止め)

※製品は、品質向上のため、予告なく仕様変更する場合があります。ご了承ください。

7. 機能説明

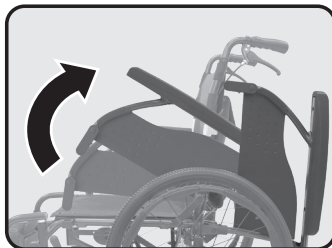
バックサポート



折りたたみ

背もたれパイプを折りたたむことができます。保管時や車への積み込み等で、製品サイズをコンパクトにできます。

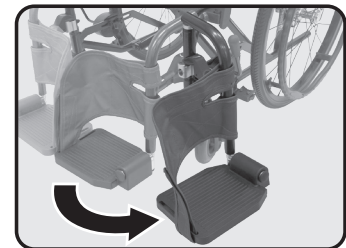
アームサポート



跳ね上げ

ひじ掛けを簡単な操作で跳ね上げることができます。ベットやトイレ等に移乗する際に介助者の負担軽減にも役立ち、大変便利です。

フット・レッグサポート

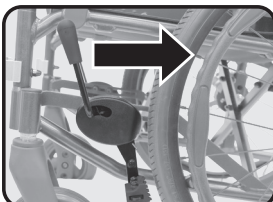


スイングイン・アウト

フット・レッグサポート部をたたむことができます。簡単な操作でユニットを脱着でき、ベッドやトイレ等へ容易に接近できるほか、片手片足操作にも適しています。

ブレーキ

駐車ブレーキ



車輪の回転をロックできるブレーキです。乗り降りの際や、食事の際に車いすが動かないよう固定することができます。

介助ブレーキ



サーボブレーキ



介助者が車輪の回転を抑えることができるブレーキです。走行中や傾斜などで速度を調整することができます。

8. 車いすのオプション

1) 座面クッション (オプション) の装着

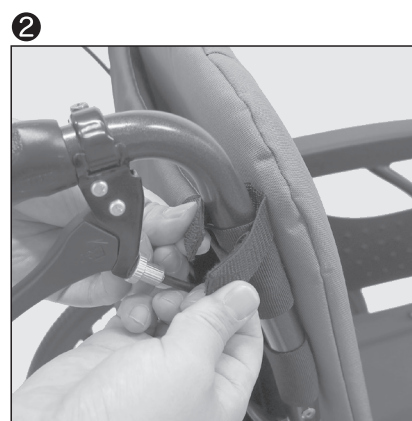
- ① 図のように座面クッションの向きを合わせ、座面に設置します。



2) 背面クッション

(オプション) の装着

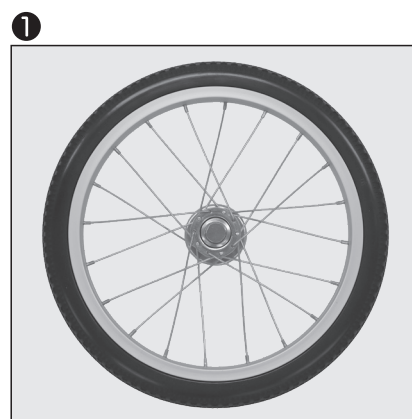
- ① 背面クッションを図のように設置します。
- ② 上部にある面ファスナーでパイプに固定させます。



3) 16インチ介助車輪 (オプション) の装着

- ① 16インチ介助車輪 (オプション) の装着に関しては、P.14 **9-6** 「座面高さの調整 (前輪キャスター、後車輪の取付け位置変更)」をご参照ください。

※作業前に、16インチ介助車輪付属の「ウイングフィットWF-RX用 16インチ介助車輪のお取り扱いについて」を必ずご参照ください。

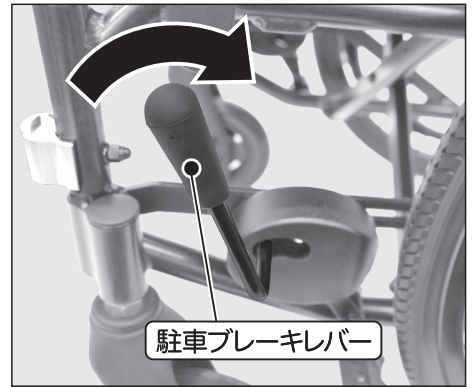


9. 使用方法

9-1 駐車ブレーキのかけ方、解除の方法

駐車ブレーキレバーを後車輪側の方向に引くと駐車ブレーキがかかり、戻すと解除されます。

※駐車ブレーキがタイヤに当たっていた部位は、凹みますが、自然と凹みは元に戻ります。



❗ 停止時は、必ず両後車輪に駐車ブレーキをかけてください。



- 製品の座面の高さを調整した際は、駐車ブレーキの前後位置を調整してください。
- 調整の手順はP.14 **9-6**「座面高さの調整(前輪キャスター、後車輪の取付け位置変更)」をご参照ください。

9-2 介助ブレーキの使用方法

介助ブレーキレバーを握ると車輪にブレーキがかかり、介助ブレーキレバーを離すとブレーキが解除されます。介助者の方が走行中や下り坂での減速及び停止に、ご使用ください。



- 走行中、急ブレーキをかけないでください。(使用者が前方へ転倒するおそれがあります。)



- 介助者の方は、介助ブレーキレバーを、両側同時にかけてください。(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)



- 介助ブレーキワイヤーは、消耗品です。安全のため定期的に交換してください。

9-3 介助ブレーキの操作時の注意

介助ブレーキが必要な場合には左右均等な力で握ってください。

介助ブレーキレバーを放すと解除されます。



- ❗ 介助ブレーキレバーを操作し、ブレーキがかかることを確認してください。
- ❗ 片方のブレーキのみ強く作用させると車いすが回転するなど危険なため、介助ブレーキは、左右均等な力で握ってください。
- ❗ 介助ブレーキワイヤーは、安全のため定期的に交換してください。

9-4 手押しハンドルの起こし方・たたみ方

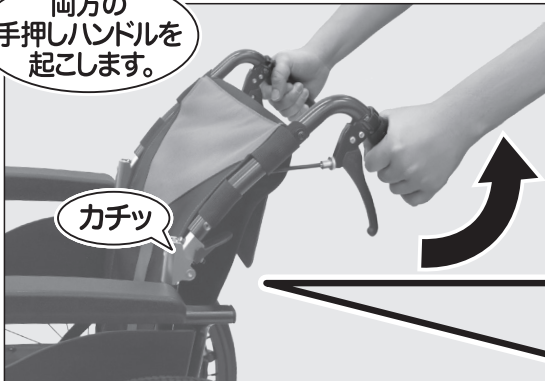
①手押しハンドルの起こし方

※手押しハンドルがたたまれた状態から始めます。車いすのシートを広げる前に、手押しハンドルを起こします。(両方の背折れジョイントから「カチッ」という音が鳴るまで起こしてください。)



- ❗ 手押しハンドルは最後まで起こすとロックされますので、必ずロックされていることを確認してください。
- ⊘ ワイヤーやシートなどを背折れジョイントに挟みこまないように注意してください。
※転倒・転落事故等の原因となります。

両方の
手押しハンドルを
起こします。



手や衣類の
挟み込みに
注意



背折れジョイントレバー



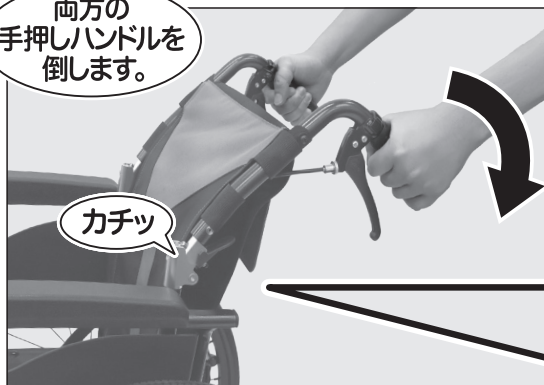
②手押しハンドルのたたみ方

手押しハンドルを握り、一方の手で背折れジョイントのレバーを後方へ引きながら手押しハンドルを倒します。

背折れジョイントレバー



両方の
手押しハンドルを
倒します。



手や衣類の
挟み込みに
注意

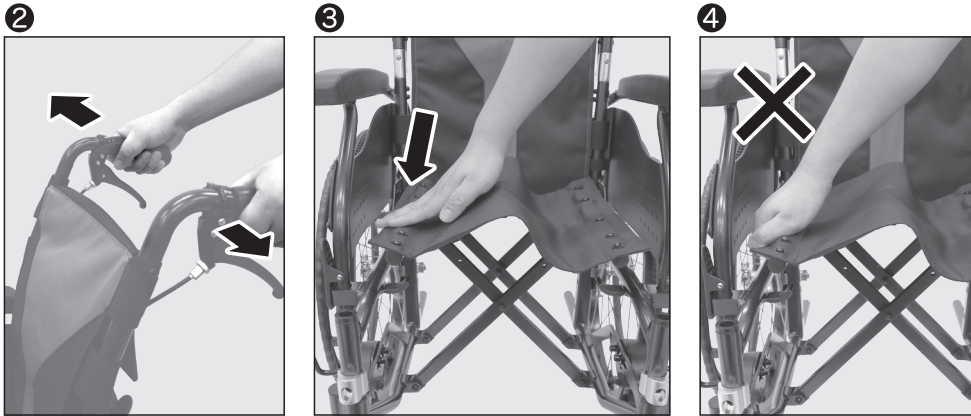


- ⊘ 手押しハンドルを起こす・たたむ操作は、使用者が乗った状態では絶対に行わないでください。背折れジョイントで身体または身体の一部や、衣類を挟んでケガをしたり、衣類が破損するおそれがあります。
背折れジョイントのボルト、ネジ、ナットは、増し締めしないでください。
過剰に締めた場合、破損するおそれがあります。

9-5 車いすを開く

① シートの開き方

- ① 両輪の駐車ブレーキをかけてください。 ※P.11 9-1 参照
- ② 手押しハンドルを軽く持ち、後車輪を浮かせながら軽く左右に開きます。
- ③ 片側の車輪を浮かせながら、浮いていない側のシート端のパイプ部分を上から手で押します。



 **注意**

- ⊘ ④の写真のように座面シート端のパイプを握らないでください。手が挟まれ危険です。

② バックシート調整ベルトの調整方法

- ① 面ファスナーを全て剥がします。
- ② 面ファスナーの貼り位置を調整し、面ファスナーを貼り合わせます。介助ブレーキワイヤーは図のように這わせ、手押しハンドルより外側にはみ出さないようにしてください。
- ③ 背面ポケット内側の面ファスナーで貼り合わせます。

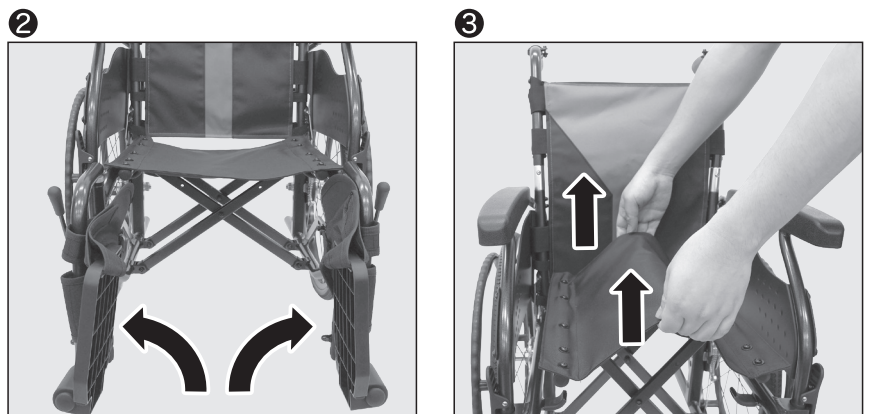


 **注意**

- ⊘ 人が乗っている状態でバックシートの調整を行う際は、介助者が使用者を支えながら行ってください。面ファスナーが外れ、後方に転落するおそれがあります。面ファスナーが使用者に当たらないことを確認してください。

③ シートのたたみ方

- ① 両輪の駐車ブレーキをかけてください。
- ② 両側のフットサポートを跳ね上げます。
- ③ 座面シート前方と後方の中央部を同時に持ち上げてたたみます。



9-6 座面高さの調整(前輪キャスト、後車輪の取付け位置変更)

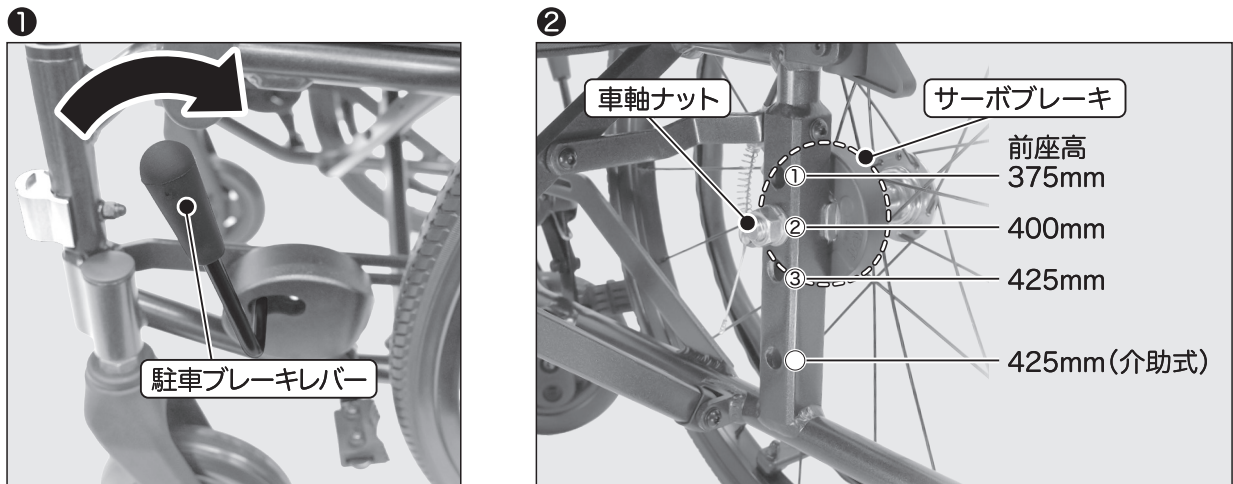
①後車輪取付け高さ変更

- ①作業しない側の駐車ブレーキだけを掛けてください。
- ②後車輪の車軸ナットを19mmスパナ等の工具で外し、後車輪を抜きます。
- ③合わせたい高さに位置を合わせ、後車輪の車軸をサーボブレーキと一緒に、本体フレームに差し込みます。

この際、サーボブレーキは下図の取付け方向となるように取り付けてください。

後車輪取付け位置は、左右同じ高さに調整してください。

後車輪の車軸ナットを締め、後車輪がしっかり固定されていることを確認してください。



②駐車ブレーキ取付け位置変更

後車輪取付け高さを変更すると、後車輪と駐車ブレーキ間の距離が変わります。駐車ブレーキ位置を調整してください。

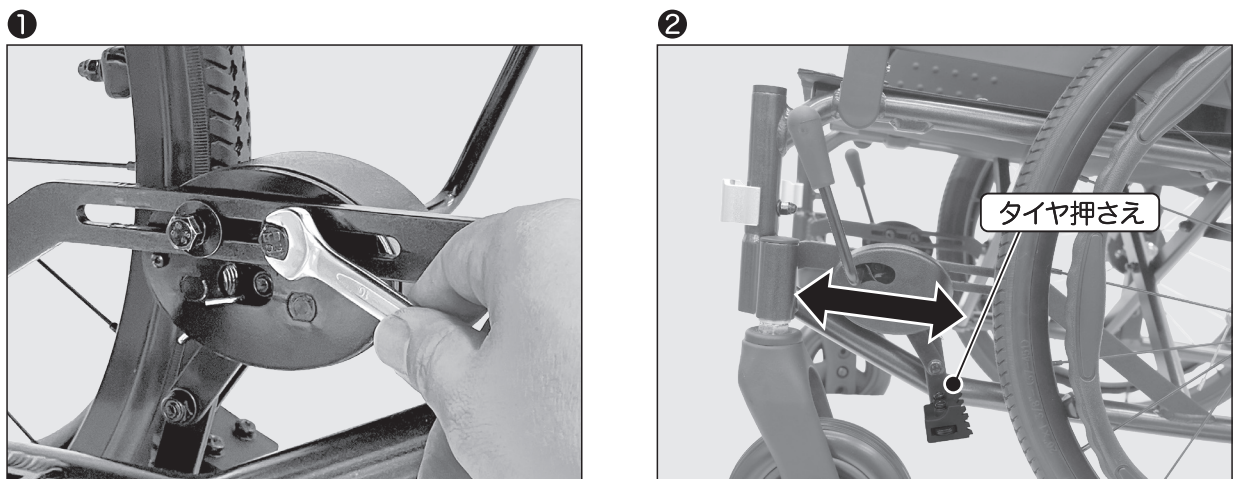
- ①駐車ブレーキの裏側に固定しているナット(2カ所)を10mmスパナ等の工具で緩めてください。
- ②後車輪にタイヤ押さえが当たり、後車輪がしっかり止まる位置に調整してください。(目安:タイヤの表面とブレーキ押さえの間が20mm程の位置)

ナットを締め、駐車ブレーキがガタつかずしっかり固定されていることを確認してください。

駐車ブレーキをかけ、後車輪がしっかり止まることを確認してください。

後車輪がしっかり止まらない場合や駐車ブレーキが効き過ぎる場合は、再度調整をしてください。

反対側も同じように調整してください。



③前輪キャスター取付け高さ変更

後車輪の取付け位置を変更した場合には、前輪キャスター高さも調整してください。

①前輪キャスターの車軸ナットをサイズ4の六角レンチ、12mmスパナで緩め、ボルトを抜きます。

②後車輪の高さに合わせボルトを差します。

※介助式の場合のキャスター高さは425mmになります。

車軸ナットを締め、前輪キャスターがしっかり固定されていることを確認してください。

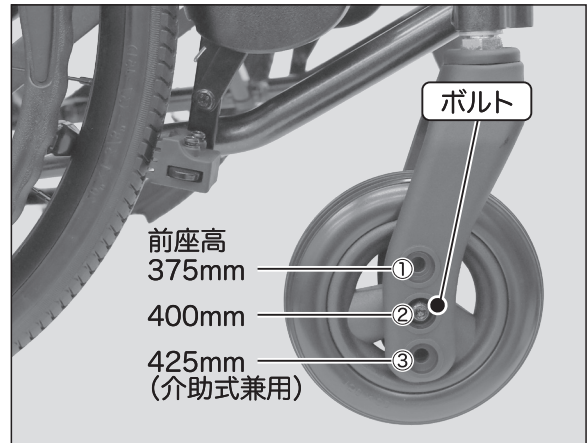
また、車輪がスムーズに回転することを確認してください。

反対側も同じように調整してください。

①



②



注意

- ❗ 座面高さ調整は、調整不足により、思いがけない事故を起こすおそれがあります。ご使用される前に十分に安全であることを確認の上、ご使用ください。調整につきましてご不明な点などありましたらお近くの販売店またはピジョンタヒラ(株)にご連絡ください。
※座面高さを変更した際は、フットサポートの最低地上高が5cm以上確保されていることを確認してください。走行中に段差に接触し、転倒するなどケガにつながるおそれがあります。
- ❗ 車輪高さは製品取扱説明書に記載されている以外の取付け位置に調整しないでください。前後、左右で異なる位置に車輪を取り付けると、転倒や脱落など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

9-7 乗り方・降り方

下記乗り方・降り方は、一例です。



- 車いすへの乗り降りの際や、ベッドへ移乗する際は、駐車ブレーキをロックし車体が動かないようにしてください。転倒・転落につながるおそれがあります。



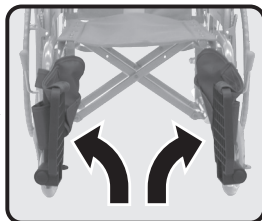
- 車いすへの乗り降りや、ベッドへの移乗は、平坦な場所で行ってください。転倒・転落につながるおそれがあります。

乗る時

- 1 駐車ブレーキを両側ロックします。



- 2 フットサポートを両側跳ね上げます。



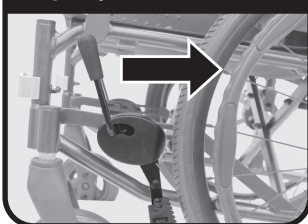
- 3 両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込みます。



- 4 フットサポートを下げ、足を乗せます。



駐車ブレーキ



- フットサポートの上に乗って立ち上がったり、車いすに乗る際にフットサポートに足で体重を載せながら乗り込まないでください。転倒・転落につながるおそれがあります。

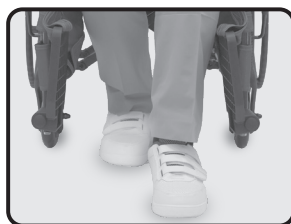


降りる時

- 1 駐車ブレーキを両側ロックします。



- 2 フットサポートを跳ね上げ足を下ろします。



- 3 両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がります。



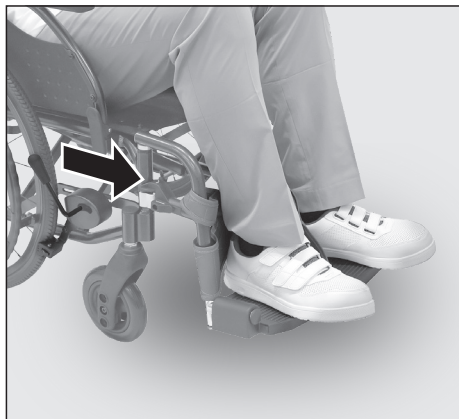
- 車いすに乗り降りする際、駐車ブレーキレバーに体重をかけたり、取っ手代わりに使わないでください。レバーの破損や、転倒、転落につながるおそれがあります。
- 車いすに乗り降りする際、跳ね上げたフットサポートに足が当たらないように注意してください。フットサポートが足にぶつかることで、ケガにつながるおそれがあります。



- フットサポートを足で跳ね上げる場合は、素足で行わず、履物を履いた状態で行ってください。足のケガにつながるおそれがあります。

9-8 動かし方

駐車ブレーキを両側解除する。



ハンドリムを握り、後車輪を回転させ移動させる。



注意

- 後車輪を回転させる際に、タイヤ部分を持って車いすを操作しないでください。ブレーキに手が当たり、ケガにつながるおそれがあります。



警告

- 車いすを走行させる際の速度は、使用者、もしくは介助者がコントロールできる速度としてください。
- 車いすを減速させる際、駐車ブレーキを使わないでください。減速する際はハンドリム、もしくは介助ブレーキを使用してください。



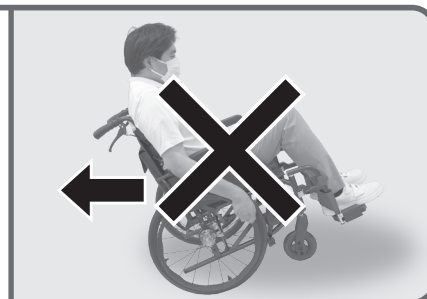
注意

- スポークや車輪との隙間に、体の一部や物を差し込んだりしないでください。ケガや製品の破損につながるおそれがあります。



注意

- 車いすでバックする際に、急停止しないでください。転倒や転落につながるおそれがあります。



注意

- 車いすに座っている際、フットサポートの下側には足を入れしないでください。足を地面にこすったり、フットサポートや前輪キャスターにぶつかることで、ケガにつながるおそれがあります。
- 足こぎで車いすを走行する際、フットサポートに足をぶつけないでください。ケガにつながるおそれがあります。

9-9 介助の仕方

次のような場所や環境で使用される際は、必ず介助者の方が付き添ってください。

介助者がいない場合は、周りの方に介助をお願いしてください。

使用者の方のみで下記の場所で使用すると、転倒やケガにつながるおそれがあります。

- 坂道、傾斜している路面
- 踏切
- 側溝のグレーチング
- 乗り物・ベッドへの移乗
- 段差



警告

- 使用者の方のみで使用する際は、車いすの座面の上に立ち上がらないでください。転倒につながるおそれがあります。



注意

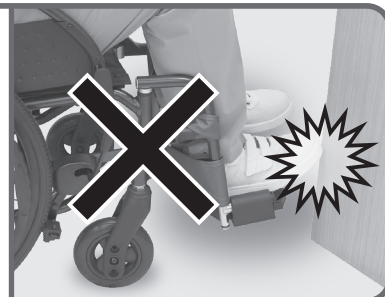
- グレーチングや踏切などで走行される際は、必ず介助者の方が付き添ってください。介助者がいない場合は、周りの方に介助をお願いしてください。

【介助者の方へ】



注意

- 走行中に、使用者のつま先が障害物に当たらないように注意して走行してください。ケガにつながるおそれがあります。
- フットサポートを使用する際は、フットサポートに使用者の足が乗っているか、確認しながら走行してください。



車いすを持ち上げる際、次のような場所は持たないでください。

不意にロックが解除される、持っている箇所が動くなど、ケガや製品の破損につながるおそれがあります。

- 手押しハンドル
- 前輪キャスター、後車輪
- アームサポート、フット・レッグサポート
- 介助ブレーキレバー、背折れジョイントレバーなどの操作レバー



注意

- 階段や急な段差など、使用者が車いすに乗ったままの状態では介助者に持ち上げてもらう場合は、必ず右図のように、ベースパイプ、バックサポートの固定されている箇所を持って、4～5人で支えてください。

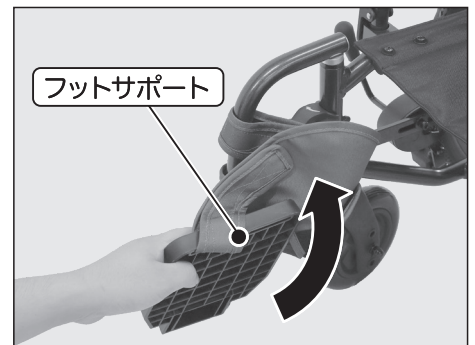


9-10 フットサポートの使い方

フットサポートの取扱い方法

フットサポートは、手で簡単に外側に跳ね上げることができます。

移乗時や介助の妨げになるときは跳ね上げてください。



注意

- ⊘ フットサポートの上に乗って、車いすに乗り込んだり、立ち上がらないでください。



9-11 ウィングアップ式アームサポートの取扱い方法

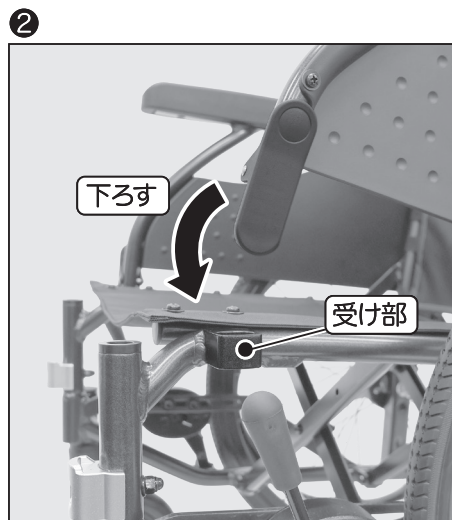
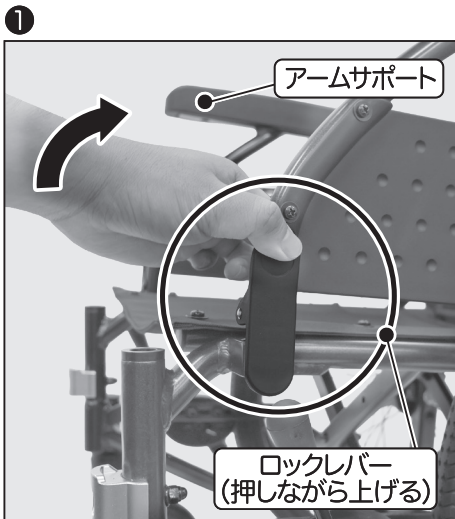
アームサポートを跳ね上げることで、横からの移乗が容易に行えます。

①アームサポートの跳ね上げ

ロックレバーを押しながらアームサポートを跳ね上げます。

②アームサポートのロック

アームサポートを下ろし、ロックレバーが引っかかりしっかりと固定されるまで下ろします。



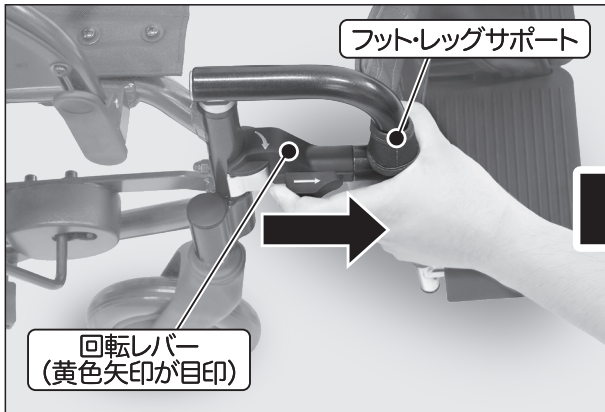
注意

- ❗ アームサポートを取り付けた際はアームサポートの先端が受け部に正しく入っていることを確認してください。
- ⊘ アームサポートを跳ね上げた状態でアームサポートを更に跳ね上げるように力をかけないでください。また、アームサポートを跳ね上げた状態で寄り掛かったり、外側から押ししたりしないでください。破損するおそれがあります。

9-12 スイングアウト式フット・レッグサポートの取扱い方法

フット・レッグサポートを開く、または取り外すことでベッド・椅子などに近づくことができます。

- ① 矢印方向に回転レバーを引きながら、フット・レッグサポートを外側に回転させ開きます。



- ② 取り外しは、フット・レッグサポートを外側に回転させた状態で上方に引き上げます。



- ③ 取り付けは、逆の手順で、フット・レッグサポートを受けパイプにはめ込み、内側に回転させます。



注意

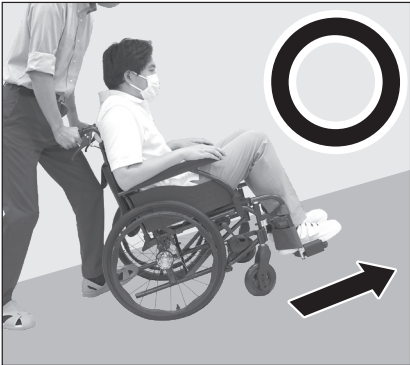
- ❗ フット・レッグサポートの回転、取り外し、取り付けは、必ず両後車輪の駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- ❗ フット・レッグサポートを取り付けた後は、必ず固定されたことを確認してください。

9-13 外出時の注意

介助者援助をお願いしてください

下記のような坂道、傾斜している路面では、必ず介助者や周囲の方に介助をお願いしてください。

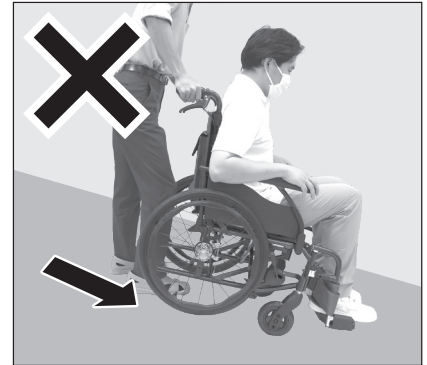
登り坂



下り坂(正しい介助の仕方)



下り坂(誤った介助の仕方)



注意

- 坂道や傾斜している路面を下る際は、車いすを後ろ向きにして、介助者の方が後方を確認しながらゆっくり走行してください。前向きで下ると、転倒や脱落につながるおそれがあります。



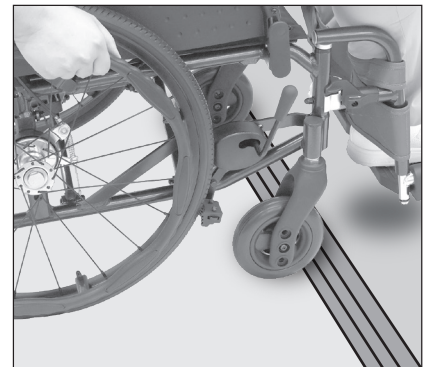
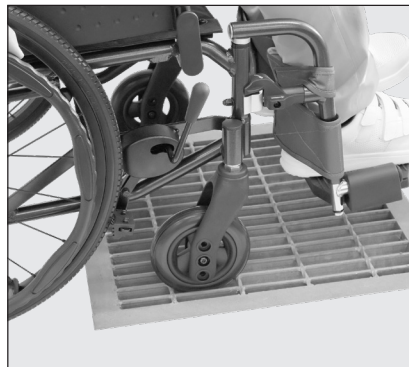
注意

- 坂道や傾斜している路面、悪路など、路面状況が悪い場所では、使用者の方が前かがみにならないよう注意してください。バランスをくずし、転倒や脱落につながるおそれがあります。



介助者援助をお願いしてください

右記のようなグレーチング、段差では介助者援助をお願いしてください。



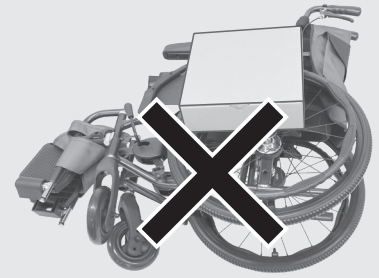
注意

- 側溝のグレーチングや踏切のレール溝等、路面のすきまに前輪キャスターが落ち込まないように注意して走行してください。車いすが急停止することで、転倒につながるおそれがあります。

9-14 その他の注意



- 車いすを横向きに置いた状態で、上に物を置かないでください。
フレームや車輪が変形し、故障につながるおそれがあります。

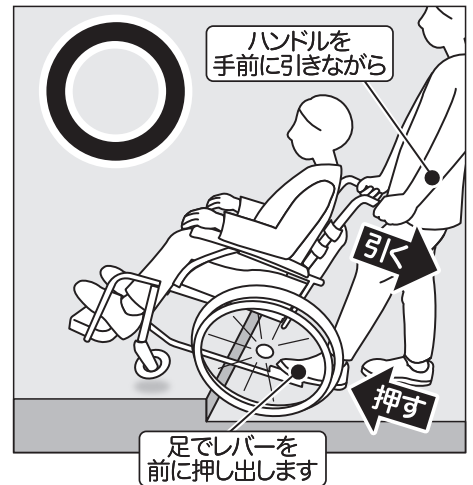
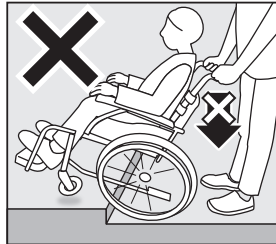
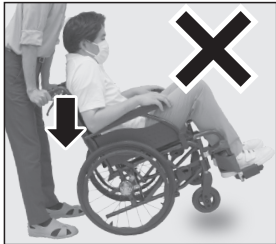


- 火気の近くに置かないでください。
タイヤやフレームが変形するなどして、製品の故障につながるおそれがあります。また、シートが燃え火災につながるおそれがあります。
また、加熱されたパイプ等に触れると、やけど等のケガにつながるおそれがあります。



9-15 ティッピングレバーの使い方

段差を乗り越える際は、介助者の方は足元のティッピングレバーを踏み込み、前方に押し出しながら、手押しハンドルを手前に引くようにして、前輪キャスターを段の上へ上げてください。



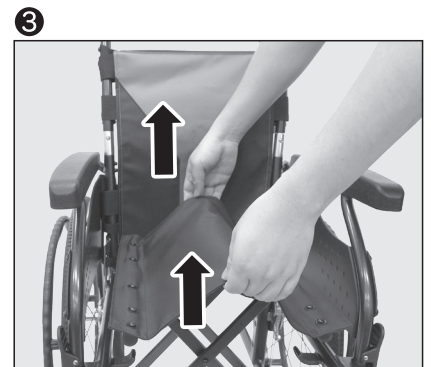
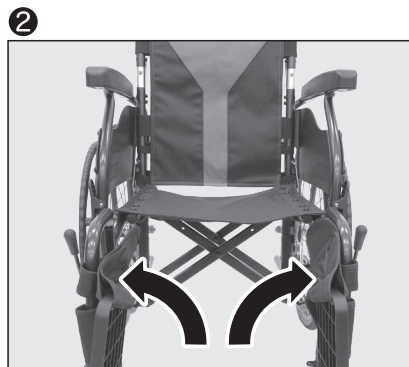
- 手押しハンドルを押し下げる操作のみで、前輪キャスターを持ち上げないでください。
フレームが変形したり、折れることで転倒につながるおそれがあります。



- 段差を乗り越えようとしてスピードをつけないでください。
転倒・転落につながるおそれがあります。

9-16 車いすのたたみ方

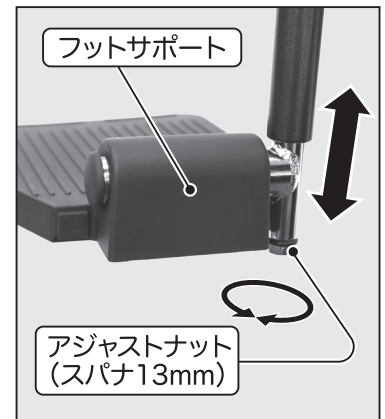
- ①両輪の駐車ブレーキをかけてください。
- ②両側のフットサポートを跳ね上げます。
- ③座面シート前方と後方の中央部を同時に持ち上げてたたみます。



10. 各部の調整の仕方

10-1 フットサポートの高さの調整

- ① アジャストナットを13mmのスパナで緩め、フットサポートを上下させて、使用者の足位置に合わせます。
- ② 位置が決まったら、アジャストナットを締め込み固定します。



注意

- ❗ フットサポートの最低地上高は5cm以上確保してください。走行中に段差に接触し、転倒するなどケガにつながるおそれがあります。
- ❗ アジャストナットは確実に締め付けてください。

10-2 バックシート調整ベルトの調整

- ① 面ファスナーを全て剥がします。
- ② 面ファスナーの貼り位置を調整し、面ファスナーを貼り合わせます。
- ③ 背面ポケットを後方向に向け、内側の面ファスナーで貼り合わせます。



注意

- ⊘ 人が乗っている状態でバックシートの調整を行う際は、介助者が使用者を支えながら行ってください。面ファスナーが外れ、後方に転落するおそれがあります。面ファスナーが使用者に当たらないことを確認してください。



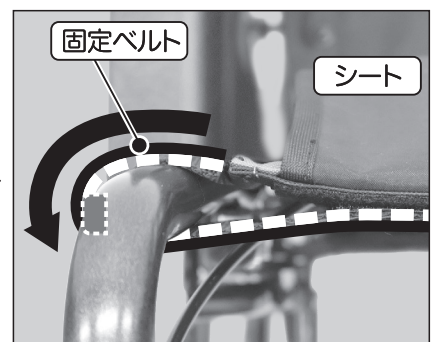
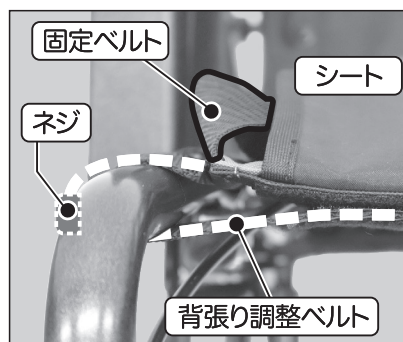
注意

- 面ファスナーについた糸くずやほこりは取り除いてください。(接着力が弱くなり、はずれやすくなります。)



指示

- 一番上の背張り調整ベルトを調整する際は、右記のように固定ベルトを留めることで、ネジが露出しないようにすることができます。



11. こんなときは(困ったときは)

本製品をご使用中に「故障かな」と思うトラブルが発生したら、依頼する前に下記項目を確認してください。

トラブル	確認内容	対処
走行操作が重い	前輪キャスター、後車輪に髪の毛、ビニール等が巻き付いていないか?	取り除いてください。
真っ直ぐ走らない	キャスター(前輪)が片寄りしてないか?	販売店にご連絡ください。
背折れジョイントのロックピンが入らない	車いすを畳んだ状態で、バックサポートを折りたたみしてないか?	車いすを拡げた状態で行ってください。
介助ブレーキが効かない	ワイヤーがねじれてないか?	ワイヤーのねじれを調整してください。
	ワイヤーの遊びが多くないか?	販売店にご連絡ください。
	タイヤは摩耗してないか?	販売店にご連絡ください。

- タイヤが凹んでおり乗っていてデコボコする → 安全性に問題ありませんが、気になる場合は交換を検討してください。

12. 車いすのお手入れの仕方

① 本体フレームのお手入れ

- 1) フレームの汚れは、中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭き取ってください。拭き取った後は乾いた布で水分を取り除いてください。
- 2) 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。



注意

- ⊘ ● 車いす本体の水洗いはおやめください。動作部の油が流れ落ち、動作に支障をきたすおそれがあります。
- 熱湯やオゾンで洗浄しないでください。製品を傷めるおそれがあります。
- シンナーやベンジンなどの揮発性溶剤は使用しないでください。製品を傷めるおそれがあります。
- たわし、みがき粉および硬いブラシは使用しないでください。製品を傷めるおそれがあります。

② 樹脂(プラスチック)部のお手入れ

- 1) 汚れは、中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭き取ってください。
- 2) 水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。

③ 走行性の確認

まっすぐ進まない場合、どこかが歪んでいる可能性があります。お買い上げの販売店または、ピジョンタヒラ(株)、ピジョン(株) お客様相談窓口までお問い合わせください。

④ シートの確認

車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所などに放置したり、長時間続けてご使用になるとシートに破損、たるみが発生します。適度な座り心地が保ちにくくなりますので、たるみ、破損が著しい場合は交換をお勧めします。

⑤ 各部ねじの確認

後車輪、前輪キャスター、駐車ブレーキなどのねじを点検し、緩んでいるときは増し締めをしてください。

⑥ クッション(オプション)

- 1) 背面クッション、座面クッションは洗濯をしないでください。
- 2) 汚れは、中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭き取ってください。



注意

- ⊘ ● 樹脂部、シート、クッション(オプション)を消毒用アルコール、有機溶剤、塩素系洗剤などで拭くと変色、劣化のおそれがありますので、おやめください。
- 使用中にシートやレッグサポートを、爪や鋭利なものでひかかると、表面に白い跡が見える場合がございます。安全性に問題ありませんが、気になる場合は中性洗剤を含ませたタオルかスポンジで拭きとってください。

13. ノーパンクタイヤのメンテナンス方法

安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- タイヤ表面の摩耗・亀裂。
- スムーズな回転、異音 等。
- 車輪の傷の有無。
- 駐車ブレーキでロックした際、後車輪は回転しないか。
- スポークの緩み、損傷 等。

※ノーパンクタイヤの交換目安は、お買い上げ後5カ年です。(使用環境、使用頻度、使用状況による。)



- ノーパンクタイヤにはウレタン素材を使用しています。
この素材は、水と反応し分解する(加水分解)性質があり、その結果タイヤのひび割れ、表面の剥離など発生する場合があります。メンテナンスの際には、十分に水分を拭き取ったあと風通しの良い日陰でよく乾燥させてください。(直射日光は避けてください。)
- 長時間保管時、駐車ブレーキでノーパンクタイヤをロックしたまま保管すると、タイヤの表面が凹む場合があります。走行に問題があれば交換してください。



- 保管時にも、高温多湿、雨、直射日光に注意してください。

14. 保守・点検

14-1 車いす点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください。)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目	年月日 点検者					
前輪 キャスター	亀裂・キズの有無					
	キャスターの摩耗					
	スムーズな回転					
前輪キャスターフォーク	損傷の有無					
	スムーズな旋回					
後車輪	タイヤの摩耗					
	スムーズな回転					
	ホイールのキズの有無					
	スポークの緩み					
本体、Xフレーム	各部キズの有無					
	ボルト・ナットの緩み					
	スムーズな折りたたみ					
駐車ブレーキ	ブレーキの効き					
介助ブレーキ	ブレーキの効き					
バックサポート・座面シート	シートの破れ・損傷					
	シート固定ネジの緩み					
フットサポート	プレートの破損					
ウィングアップ式 アームサポート	固定ボルトの緩み					
	パッドの破損					
その他						

14-2 消耗品・交換部品の確認

それぞれの部品が交換時期になった際は、早めに交換してください。新しい部品に交換する際は、お買い上げの販売店またはピジョンタヒラ(株)、ピジョン(株)お客様相談窓口までお問い合わせください。

消耗品・交換部品

部 品 名	交 換 時 期
後 車 輪	タイヤ表面の溝がなくなったとき。表面がひび割れたとき。
介 助 ブレーキワイヤー	介助ブレーキの動きが悪くなったとき。
前 輪 キ ャ ス タ ー	しっかり取り付けていてもガタガタするとき。表面がひび割れたとき。
座 面 シ ー ト	ほつれ、切れ目が発生したとき。ひどく汚れたとき。
バ ッ ク サ ポ ー ト	
背面クッション(オプション)	
座面クッション(オプション)	



- ❗ 交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながるおそれがあります。それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。

15. 廃棄方法について

- お住まいの各自治体の指示にしたがい、処分・破棄してください。
- 地球環境のため、不法投棄等の放置はしないでください。

16. アフターサービス

この製品についてのお問い合わせ

ご意見、ご質問は、お買い上げの販売店またはピジョンタヒラ(株)、ピジョン(株)お客様相談窓口までお問い合わせください。

修理を依頼されるには

お買い上げの販売店に、この製品の品名、製造番号(ロットNo.)、および故障状況をくわしくご連絡の上、お申しつけください。転居、贈答品などでお買い上げの販売店に修理を依頼することができない場合は、ピジョンタヒラ(株)またはピジョン(株)お客様相談窓口までお問い合わせください。

製品の保証について

- 1) 保証内容につきましては、次のページの保証書をご覧ください。
- 2) 保証期間経過後の修理については販売店にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理いたします。

お問合せ先 **ピジョンタヒラ株式会社**

〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町4-4 ピジョンビル

ピジョンタヒラ
(代表) TEL **03-3661-4371**



ピジョン株式会社

〒103-8480 東京都中央区日本橋久松町4-4

(お客様相談窓口) TEL **0120-741-887**



保証について

保証書は日本国内においてのみ有効です。

この保証書は明示した期間、条件の下において無償での対応をお約束するものです。

従いまして、この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

ご使用中、万が一故障が発生した場合は、お買い上げの販売店またはピジョンタヒラ(株)、ピジョン(株)お客様相談窓口へ現品に保証書をそえて、修理をご依頼ください。

保証期間経過後の故障などの対応等につきまして、お分かりにならない場合は、お買い上げの販売店またはピジョンタヒラ(株)、ピジョン(株)お客様相談窓口までお問合せください。

保証書は再発行いたしません。大切に保管してください。

保証書		
製品名	シリアル番号	保証期間
ウイングフィット WF-RX		お買い上げ日より1年間 (ただし保証規定による)
お客様	お名前	お買い上げ日 年 月
	ご住所 〒	TEL
販売店	店名	TEL
	住所	

*太枠内の記入なき場合は無効となりますので、必ずご記入ください。

*ただし、販売店の記載については、お買い上げ時のレシートまたは販売証明書の添付でも有効です。

保証規定

- 保証期間は「お買い上げ日より1年間」です。
- 製造終了から3年経過した製品や、修理に必要な部品の在庫が無くなった場合、既に修理対応ができない製品については、修理をお受けできない場合がございます。
- 保証期間内に取扱説明書に基づく正常な使用方法において、万が一故障した場合には無償修理を行います。お客様の誤使用などによる故障においては有償修理となります。また依頼時点の状況により保証期間内であっても修理自体ができない場合もありますので予めご了承ください。
- 保証期間内であっても下記の項目に該当するものは有償修理となります。
 - 保証書の提示のない場合(製品に同梱されている取扱説明書にあります)
 - 部品の自然劣化および自然消耗による変退色
 - 可動部、消耗部品(タイヤ、キャスター等)の消耗、故障、損傷等
 - 縫製品の色あせ・やぶれ・すり切れ・ほつれ、その他の損傷および破損
 - お客様の誤使用・保管不備・手入れ不足・改造や不当な修理による故障、損傷および破損
 - 部品の紛失
 - 火災・地震・水害・落雷等、天災地変などの不可抗力による故障、損傷および破損
 - 事故や落下などにより強い衝撃を受けたことによる故障、損傷および破損
 - 故障の原因が本製品以外に起因する場合
 - 故障ではない箇所をお客様のご依頼により交換する場合
 - 保証書の必要記入項目に不備がある場合、字句を書き換えられた場合
 - 有償修理の場合に要する発送運賃、消耗品の代金はお客様負担となります。
- 製品による二次的な損傷、損害などは本保証の対象外となります。
- 本保証は、日本国内で購入し使用した場合においてのみ有効です。海外への修理サービスは、いたしかねます。
- 本保証は、保証書に記載の販売店からお買い上げいただきましたお客様(贈答品については、当該お客様より贈答を受けた方)のみ有効です。
ネットオークション、フリーマーケット、リサイクルショップなどにより、第三者から有償無償を問わず譲渡を受けた製品につきましては、本保証は適用されません。

2022年8月現在

お問合せ先 **ピジョンタヒラ株式会社**

〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町4-4 ピジョンビル

ピジョンタヒラ
(代表) TEL **03-3661-4371**



ピジョン株式会社

〒103-8480 東京都中央区日本橋久松町4-4

(お客様相談窓口) TEL **0120-741-887**



